

スズメバチのあれこれ

わたなべ きょうへい
渡辺 恭平 (学芸員)

スズメバチはその恐ろしさから、よく知られた昆虫です。私はハチの研究者なので、毎年スズメバチについて相談をよく受けます。そこで、本格的な夏が来る前に、スズメバチについて知っておくことや、神奈川県にどんなスズメバチが生息しているか、紹介したいと思います。

スズメバチの基本的な特徴

スズメバチはなぜ人を刺すのでしょうか？ それには大きく分けて2つの理由があります。一つは「自分の身を守るため」です。もう一つは「家族を守るため」で、これがハチに襲われる際に最も当てはまるケースとなります。日本からは4000種を超えるハチが知られていますが、その中で被害例が多いスズメバチ、アシナガバチ、ミツバチは社会性という共通の特徴を持っています。彼らの社会は卵を産む女王バチと、巣の修理・拡張や家族の世話をする働きバチ（全てメス）、交尾の際に現れるオスから構成されています。野外で見かけるハチは、ほとんどが働きバチです。女王を守らなければ家族が滅びてしまうため、働きバチは必死に攻撃するのです。ハチも人が怖いので、相当に刺激をしなければ、自分の身を守るために危害を加えてくることはありません。たいていはハチの方が逃げていきます。ですから、巣の近くや、スズメバチの活動が活発な秋を除き、必要以上に怖がる必要はありません。ちなみに、よくクマバチを怖がる人がいますが、クマバチはとてもおとなしいハチなので、手をつかまない限り、人を刺すことはありません。おそらく、黒い体、大きな羽音、そしてスズメバチが地域によってはクマンバチと呼ばれていることから、混同されているためだと思います。

スズメバチの針は家族を守るためや、幼虫に与えるエサ（ガの幼虫など）をおとなしくさせるために使用します。もともとは産卵管なので、産卵管がないオスは刺すまねはしますが、刺すことはできま

せん。オスは秋に出てきて、花を訪れますが、メス（働きバチ）と間違えたら危険ですので、触らないほうが無難です。

夏場、カブトムシやクワガタムシを探りに雑木林に行くと、よく樹液にスズメバチが来ていますが、何をしていますのでしょうか？ これはハチ自身が樹液をなめに来ているほかに巣の材料となる木くずをとりに来ているのです。樹液が出ている場所は木がやわらかく、削りやすいため、よく観察していると、せっせと巣材の確保をしているのがわかります。これにより樹液の出る範囲が広がり、結果として多くのカブトムシやクワガタムシが大喜びするのです。樹液に来るスズメバチは基本的に攻撃性が低い状態ですが、多数いるときは襲ってくることもあるので、注意すべきですし、むやみに刺激することは避けるべきでしょう。

スズメバチがカチカチと音を立てて私たちのまわりを飛んでいたら要注意です。これは警告音で、この音を出しているスズメバチは相当に怒っていると考えて良いでしょう。この段階で人がハチから遠ざからないと、ハチは人に対して毒液を噴射します（我々にはあまり見えません）。この毒液は攻撃目標（マーカー）で、これを目指してまわりのハチが興奮して襲ってきます。多数のハチがいる場所、特に

巣のそばで捕虫網を用いて駆除をする場合など、この毒液のせいで巣の中から大量のハチが飛び出してきて危険です。このほか、ハチは黒いものや桃などの果物の匂いのする香水などに誘引されることがわかっているので、注意が必要です。ハチは甘いものが大好きなので、意外に危ないのが飲みかけの缶ジュースです。飲みかけの缶にいたハチに気づかずに唇を刺されたケースがあるので、ハイキングやキャンプのときには注意してください。



図2. 珍しいチャイロスズメバチ. 高桑正敏氏撮影.

神奈川県のスズメバチ

2004年に神奈川県の全昆虫をまとめた「神奈川県昆虫誌」によると、神奈川県からは10種のスズメバチが報告されています。この中にはジバチやヘボとよばれ、食用にされるクロスズメバチや、山地に見られるホオナガスズメバチといった比較的体が小型な仲間も含まれています。それらのグループはまたの機会にお話しすることにして、今回は我々がスズメバチ、と聞いてイメージする *Vespa* (ヴェスパ) 属のスズメバチについて説明します。

神奈川県に生息する *Vespa* 属のスズメバチは、オオスズメバチ、コガタスズメバチ、ヒメスズメバチ、モンズメバチ、キイロスズメバチ、チャイロスズメバチの6種です。これらを見分けるには、まずは腹部の先端を見ます。先端が黒色の場合はヒメスズメバチかチャイロスズメバチです。ヒメスズメバチは腹部が通常のしま模様なのに対して、チャイロスズメバチは腹部全体が黒いので、両種の区別は容易です。ヒメ

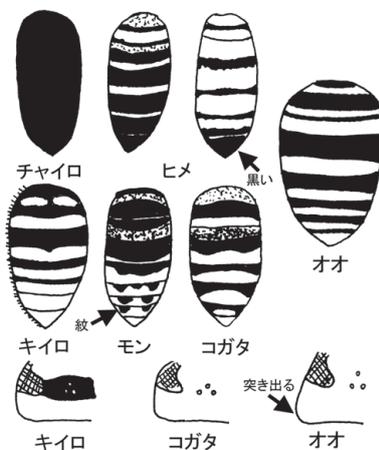


図1. 神奈川県産スズメバチ6種. 腹部(後体節)と頭部を真上からみたもので、模式的に描いてある. 各種とも若干の色彩変異があるが、ヒメは変異が大きいので、2つの例を示した.



図3. 日本最大のスズメバチ, オオスズメバチ.
高桑正敏氏撮影.



図4. 巣の材料を集めるコガタスズメバチ.

スズメバチはおとなしい種で、巣を刺激したり、つかんだりしない限り襲われることはほとんどありません。チャイロスズメバチは他のスズメバチの巣を乗っ取るスズメバチです。ある程度大きくなったモンズメバチの巣にチャイロスズメバチの女王が侵入し、モンズメバチの女王を殺して女王の座を奪うと、初期の頃はモンズメバチの働きバチに自分の子どもを世話させ、徐々に家族をおきかえてゆく、おもしろい生態を持っています。この種はとても珍しく、神奈川県では数個体しか得られていないのですが、近年キロスズメバチも乗っ取りの対象にしたらしく、分布が拡大しているといわれています。珍しいのでついつい採集したくなります(?)が、攻撃性が高いので、刺激すべきではないでしょう。

腹部の先端が黄色の場合、次は頭部を見ます。ちょうど複眼の間、単眼があるあたりが広く黒ければキロスズメバチかモンズメバチです。全般的にやや毛深く、胸部の翅の付け根の間あたりに黄色～赤褐色の部分があればキロスズメバチ、翅の付け根の間が黒色ならばモンズメバチです。両種とも攻撃性は高いので注意してください。キロスズメバチは人家の軒下に営巣し、巣はしばしば巨大になります。人間の活動圏を好

み、個体数も多いため被害が多い種です。モンズメバチは分布が局所的で、県内の産地は少ないのですが、生息地ではよく見かけます。

残りは頭部が黄色い種、オオスズメバチとコガタスズメバチです。両者は名前の通り体の大きさである程度区別ができますが、正確に区別するには頭部の頭盾という部分の突起の数を見ます(オオスズメバチは2つで、コガタスズメバチは3つ)。ただ、これはわかりにくいので、私はほおの張り出し具合で識別しています。頭を真上から見たときに、複眼の後ろでほおが強く張り出していればオオスズメバチ、そうでなければコガタスズメバチです。オオスズメバチは一番大きなスズメバチで、ほかのスズメバチと違い、森林の土中によく巣を作ります。そのため、巣に気づかないで被害にあうことがあります。特に秋に、森林やその周辺でランニングをする人などは、走ったり歩いたりする際に生じる振動でハチが興奮することがあるため、注意してください。携帯音楽プレーヤーを聞きながらのランニングや登山は、ハチの警告音に気づくのが遅れるため、危険です。本種も攻撃性が高く、毒液の量も多いため、特に危険な種です。本種のオスは巣からあまり離れないため、オス(触角が長い)がいた際は周囲に巣がある可能性が高く、相当に注意が必要です。コガタスズメバチは比較のおとなしい種で、ヒメスズメバチ同様気をつけていれば襲われることはほとんどありません。ただ、本種は庭木などに巣を作ることが多く、攻撃性は弱いものの、巣を守る性質が強いため、庭の手入れの際に刺されてしまうことがあります。本種の巣は初期の頃は逆さまにした丸底フラスコのような形をしており、とても美しい姿をしています。本種に限らず、巣を発見した際はお住まいの地域の役所に問い合わせし、専門業者に駆除を依頼することをお勧めします(私は駆除のプロではないので、依頼されてもお役にたてません!))。

以上、神奈川県に生息する6種のスズメバチを紹介しました。今度彼らを見かけたら、そっと観察してみてください。

もしも刺されてしまったら・・・

スズメバチの怖さは、刺された際の毒によるものもありますが、一番怖いのはその毒に対して体内で生成された免疫機能が過剰に反応してしまうアナフィラキシーショックです。一回目に刺された際は毒液注入によって刺された箇所が大きく腫れるだけで、よほどのことがない限り、死ぬことはほとんどありません。むしろ、刺された恐怖から体調を悪化させぬよう、冷静になることが重要です。また、不安やわからないことがある際は、安易に自己判断をせずに、医師や薬剤師の判断を仰ぐのがよいでしょう。刺されたときは、巣が近くにある場合は速やかにその場から離れます。その後、水やお茶で洗浄し(毒は多少とも水に溶ける)、手で毒を絞り出し、抗ヒスタミン剤含有のステロイド軟膏を塗るか、錠剤を飲みます。へび毒等の吸引用のポイズンリムーバーがあればよりしっかりと毒が抜けるので、さらに良いでしょう。なお、刺された場所におしっこをかけるとよいなどという俗説もありますが、科学的根拠はなく、衛生上もよくありません。

危ないのは、2回目以降の被害です。刺された後に吐き気、下痢、じんましん、呼吸困難、全身のむくみが出た場合はアナフィラキシーショックの可能性があるので、早急に病院へ行くべきです。2回目以降に症状が出なくても何回目かで急に現れることがあるので、常に注意が必要です。

これから最高のフィールドシーズンを迎えるにあたり、フィールドで出会う危険を理解しておくことは大変重要です。当館出版物の「フィールドワークの達人」には各分野の学芸員がこれらフィールドで遭遇する危険と対策をわかりやすく紹介しています。また、学研が出している「知っておきたい!アウトドア危険・有毒生物安全マニュアル」はスズメバチに限らず広く危険な生物を紹介しているので、フィールドに出る前にこれらの本をぜひご一読することをお勧めします。